

## 《オバマ新大統領の新アポロ計画＝再生可能エネルギーの劇的普及政策》

お元気でいらっしゃいますか。

勝手ながら下記のように弊社のメールマガジンをお送りいたします。ご興味のない場合はご連絡下さい。以後送信を控えます。[info@greenfund.co.jp](mailto:info@greenfund.co.jp)

グリーンファンド メールマガNo.12  
2008年11月11日  
(c) 山内浩一  
[www.greenfund.co.jp](http://www.greenfund.co.jp)  
[info@greenfund.co.jp](mailto:info@greenfund.co.jp)

来年1月20日に就任するオバマ新大統領の政策の柱となるのは景気刺激策であることは論を待たない。その景気刺激策の中心となるのは再生可能エネルギー(太陽光、風力、バイオマス、地熱の各エネルギー)による電力を劇的に普及させる政策であることが明確になりつつある。

このように断言できる根拠は以下のとおりである。

### [1] 次期主席補佐官エマニュエル、イリノイ州下院議員の発言

同議員は11月9日のABCテレビのインタビュー番組「This week」で下記のように述べた。即ち(下記の赤字部分)「自動車産業が単に救済されるだけでなく、自動車業界が(オバマ新大統領が意図する)アメリカの輸入原油に依存する現況を緩和するようなエネルギー政策の一端を担う政策を立案してほしいと経済政策チームに指示した。」と発言した。

<http://abcnews.go.com/ThisWeek>

**"President-elect Obama has asked his economic team to look at different options at what it takes to help bridge the auto industry so not only are they apart of a revived economy but part of an energy policy where America is less dependent of foreign oil."**

オバマ新大統領のエネルギー政策は下記の自身のHPにあるように再生可能エネルギーを普及させるために今後10年間で\$1500億ドル(15兆円)を投資するというものである。この中で特に注目すべきは、下記(赤いフォント)にあるように「(1)(自動車業界の再生に関係した事では)プラグインハイブリッド車の商業化の推進、(2)政府の支援無しで自立できる商業規模の再生可能エネルギーの開発である。」と明言している。

オバマ大統領のエネルギー政策

<http://www.barackobama.com/issues/economy/>

**Invest In A Clean Energy Economy And Create 5 Million New Green Jobs:** Obama and Biden will invest \$150 billion over 10 years to advance the next generation of biofuels and fuel infrastructure, accelerate the commercialization of plug-in hybrids, **promote development of commercial scale renewable energy**, invest in low emissions coal plants, and begin transition to a new digital electricity grid. The plan will also invest in America's highly-skilled manufacturing workforce and manufacturing centers to ensure that American workers have the skills and tools they need to pioneer the first wave of green technologies that will be in high demand throughout the world.

プラグインハイブリッド車と太陽光発電(PV)には素晴らしい相互補完性があることはこのメルマガ9号で指摘したが、要するにプラグインハイブリッド車が普及した結果、火力発電の電力消費(の燃料となる原油消費)が伸びてしまっただけでは輸入原油への依存低下にはつながらないが、そうではなくプラグインハイブリッド車を購入する各家庭にPVを普及させることで発電と電力消費(この場合は自動車運転による消費)の両面でクリーンな米国を再建し輸入原油への依存度合いを低下させるという自らの公約の実現を可能にするシナリオが完結するのである。

## [2] オバマ新大統領の新アポロ計画

<http://watthead.blogspot.com/2008/10/obamas-top-priority-apollo-project-to.html>

オバマ新大統領は1929年に起こったアメリカ大恐慌から経済を立て直したF・ルーズベルト大統領や「アポロ計画」で人類の月への到達を目指したケネディー大統領に自らを重ね合わせることを意識していると報じられているが、そのオバマ新大統領はケネディー大統領が1961年に発表した「人間を1960年代末までに月に送り込むアポロ計画」を意識してか、新アポロ計画を立案中と伝えられている。その計画では次の10年で\$5000億ドル(50兆円)を投じる意向を持っていると言われている。その要旨は下記のようなものである。

- 1 2025年までに再生可能エネルギーによる発電シェアを25%までに高める。
- 2 省エネとエネルギー利用効率の向上(例えば車の燃費の改善)
- 3 エネルギー支出を削減する施策の実施
- 4 アメリカの技術上のかつ産業上の能力向上(具体的には大幅なR&D予算の計上か?)
- 5 五百万人分のグリーン(環境貢献型の)雇用機会の創出

## [3] 70兆円に上る金融救済法と抱き合わせ成立した再生可能エネルギー普及法

10月初旬に民主党が多数を占めるアメリカ下院が一度否決した金融救済法を再可決した際に、実は太陽光発電業界が(共和党の反対で三回否決されてもくじけずに)待ち望んでいたPV投資に対する税額控除を可能にする法律が抱き合わせ成立したことは今後のオバマ政権のエネルギー政策を考える上で見逃せ

ない。特にこれまでであったPV投資に対する税額控除の上限(これまで2000ドル)が撤廃されたことは大きい。これによってお金持ちの個人、企業によるPV設置が促進されるであろう。景気刺激をする必要に迫られている日本も見習うべき法制度である。

## [メルマガ11号参照](#)

[4] ゴア元上院議員の提唱:「10年以内に電力の100%をクリーンエネルギーで賄おう。」

クリントン政権の副大統領であった民主党のゴア元上院議員は今年7月17日にワシントンで演説し「10年以内にアメリカの電力の100%をクリーンエネルギーで賄おう。」という国家目標の提唱を行った。やや夢物語的ではあるが民主党の有力議員が多く出席していた。ゴア議員の演説の格調の高さは一般のビジネスマンの参考にもなる。

ゴア演説テキスト <http://www.npr.org/templates/story/story.php?storyId=92638501>

Today I challenge our nation to commit to **producing 100 percent of our electricity from renewable energy and truly clean carbon-free sources within 10 years.**

ゴア演説動画 [http://video.google.com/videosearch?hl=ja&q=al+gore+speech&lr=&um=1&ie=UTF-8&sa=X&oi=video\\_result\\_group&resnum=4&ct=title#](http://video.google.com/videosearch?hl=ja&q=al+gore+speech&lr=&um=1&ie=UTF-8&sa=X&oi=video_result_group&resnum=4&ct=title#)

以上の根拠により今後のオバマ政権は再生可能エネルギー電力を大幅に普及させる政策を推進する可能性が高まった。しかしよくよく考えてみれば、劇的に再生可能エネルギー電力の普及を促進させる政策を立案すべきなのは輸入石油依存率100%の日本である。定額減税などという超目先の選挙対策費をばらまく金があったら、再生可能エネルギー電力を大幅に普及させる政策を提唱すべきなのである。何故ならばこの政策こそは(1) 輸入原油依存度を減らし日本の安全保障に寄与し、(2) CO2削減を通して地球環境保全に貢献し、(3) 21世紀の核心となる技術開発を促し、(4) 景気を刺激し雇用機会をふやすことにつながる多面的な効果を有する政策だからである。オバマ政権以上に日本の政権政党こそそのような大胆な国家目標を提唱すべきである。(以上)